

埼玉ピースミュージアム(埼玉県平和資料館)の令和7年度事業について報告します。

### 「戦後80年展示 戦争と復興 一埼玉県の歩み一」

令和7年7月12日(土)～8月31日(日)

今回の展示では、戦争中の埼玉県はどのような場所だったのか、埼玉県は終戦からどのように復興し、歩んできたのかをテーマとして、戦争中の埼玉県内の軍事関連施設や、戦後の埼玉県の主だった出来事を取り上げて紹介しました。

展示は「Ⅰ 戦争中の埼玉県」、「Ⅱ 終戦と復興」、「Ⅲ その後の埼玉県」、「Ⅳ 現代の平和教育」の4部構成としました。

第Ⅰ章では、戦争中の埼玉県内に所在した陸軍の士官学校や飛行学校、飛行場など軍事関連施設のほか、戦争に用いた武器や弾薬、軍服などを製造した軍需工場の様子を伝える写真、公文書、士官学校生徒の日記などを展示しました。埼玉県は帝都東京に隣接し、鉄道による物資の輸送を行いやすかった上に、開けた土地が多かったという理由で、軍事に関連した施設が多く作られていました。

第Ⅱ章では、終戦を迎え、戦争によって大きな被害を受けながらも復興に向けて歩み始めた人々の様子が分かる公文書や生活用品、写真、教科書などを展示しました。

第Ⅲ章では、戦後の復興から現在に至るまでの埼玉県の歩みを振り返りました。東京オリンピックや新幹線の開通、FIFA ワールドカップ2002など埼玉県内の主だった出来事を、当時のポスターやイベントのパンフレット、記念切手や公式ユニフォームを展示して紹介しました。

第Ⅰ章、第Ⅱ章で紹介した過去を踏まえて、終戦から年月が経過し、若い世代にいかに関戦の悲惨さ、尊さを語り継ぐかが課題となっていることから、第Ⅳ章では、現在平和資料館で実施している平和教育のための事業を紹介しました。

展示を見た方からは、「身近な場所に軍事関連施設があったことを知らなかった」、「戦争中の埼玉県内の様子が分かる展示をまた開催してほしい」といった感想をいただきました。夏休み期間中に開催された展示だったこともあり、非常に多くのお客様に御来館いただきました。特に小・中学生を連れた御家族が展示室で熱心に見学されていたのが印象的でした。



「戦後 80 年展示 戦争と復興」チラシ



展示室内の様子



写真「浦和飛行場訓練開始前」(当館蔵)

はじめに

毎年開催している本展【写真1】では、収蔵資料を中心に、戦前から終戦直後における人々の暮らしに関わる資料を展示し、その移り変わりを紹介しました。今年度は、普段通り、「戦前・戦中の暮らし」（今回は「健康と衛生」、「前線と銃後」に分割）、「学校と遊び」、「空襲と疎開」、「出征から復員」の4章構成を引き継ぐ一方、いくつかの工夫を施しました。ここでは、それらのねらいや担当者イチオシの見どころを振り返ります。

1 蔵出しポスター

戦時下を生きた人々が少なくなった現在、残された資料や記録こそが、当時の様子を知る貴重な手がかりです。特に今回は、ポスターに重点を置きました。当館では昭和期のポスターを所蔵しており、その内容からは、同時代における人々の考え方や社会の様子を読み取れます。そこで、ポスターと共に、描かれた内容に関わる、当時作られた資料を展示しました。例えば、医薬分業のポスター（資料番号 880654）と置き薬、出征遺家族への援護を訴えたポスター（資料番号 940066）と千人針といった組み合わせです【写真2】。人々は街角に貼り出されたであろうポスターを眺めて情報に接し、あるいは置き薬や千人針を手元で大切に持っていました。このように、人々が暮らしていた様子の一端を資料の組み合わせから紹介し、過去の人々の営みを身近に感じていただきたいねらいがありました。

2 金属供出ビフォーアフター

加えて、戦争による変化を跡付けることも重要です。戦時下においては、人々に暮らしに関わる様々な制限が課せられました。その一例が、明覚国民学校（現ときがわ町立明覚小学校）で金属供出による撤去前と後に撮影された写真【写真3】（資料番号 20080072-05、-06）です。いずれも同じ校舎を背景に生徒や職員が写されていますが、校舎前に設置された二宮金次郎（尊徳）像の有無が異なります。昭和16年（1941）の金属類回収令などで金属類は軍需優先とされ、寺の鐘やマンホール、家庭の鍋や釜などが供出・献納されました。江戸時代後期に農村の復興に尽力した二宮金次郎は、手本とするべき人物とみなされ各地の学校に銅像が建てられましたが、その多くが戦争で撤去されたと言われています。このように、当たり前にあった物が戦争のために無くなるのが、戦時下の暮らしにおける一コマでした。

3 志願兵採用プロセス

さらに、戦争による変化は、身近な物のみならず、一人ひとりの人生にも訪れました。今回展示した海軍志願兵の検査に関わる文書は、応募から2回の検査、採用決定に至るまでの過程が分かるよう、日付順に展示しました。とはいえ、戦時下の資料は茶色い物が多く、それだけでは地味で見栄えに乏しいため、配慮が必要です。そこで、「葉を読んで応募！」といった、検査の段階を説明する文言を記した矢印型の水色パネルを、文書の上に置きました【写真4】。検査を受けた人は、現在の我々が試験に向かう時と同じく、不安や期待を感じていたことでしょう。戦時下を生きた人々の人生に、資料を通して想像を及ぼせるよう、様々な工夫を施すことが重要です。

おわりに

本展に寄せられたアンケートには、「私の祖父は海軍志願兵でした。……祖父がどのようにして志願したのかがわかりました。亡くなってしまいましたが、祖父を思い出しました」、「猛々しい言葉の並ぶ書道や国策ポスターに目を通し、……自由を抑制された空気を感しました」【写真5】といった感想がありました。このコーナーで紹介した工夫や見どころに、どれだけお気づきいただけたかは分かりませんが、本展を観覧された皆さんが、少しでも自分にとって切実なこととして、戦争や平和について考えてくださったならば、担当者としてこれほど嬉しいことはありません。



写真1 本展チラシ



写真2 ポスター展示



写真3 金属供出前後の写真

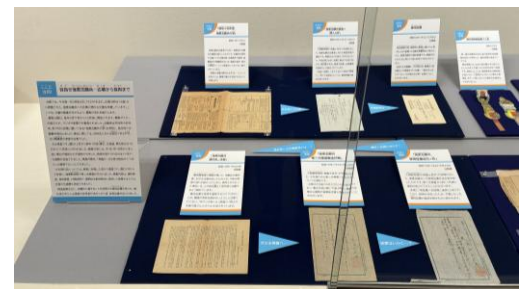


写真4 海軍志願兵関連の文書



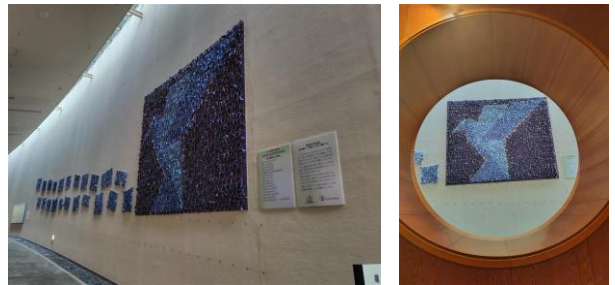
写真5 児童の習字

# 令和7年度に実施したイベントについて

## 戦後80年企画

### 1 戦後80年折り鳩アート「はとに願いを」

戦後80年にあたる今年、これからを担う若い人たちと共に、未来に向けて平和を願う折り鳩アート「はとに願いを」を制作・展示しました。この作品は、近隣の学校やピースガイダンス参加の学校に御協力を募り、御提供いただいた3,000枚以上の折り鳩を使用して、県立鳩山高等学校美術部の皆様に制作していただきました。7月8日(火)から館内通路壁面にて展示を開始し、併せて実施しているアート参加企画とともに、御来館の皆様が平和への願いを



はと(80)に込め、思いを新たにすきっかけとなっています。

なお、開始当初このアート展示は、8月31日(日)までの期間を予定していましたが、多くの御好評を受け、参加企画と共に令和8年8月30日(日)まで期間を延長しました。企画で制作していただいた折り鳩は、その一つ一つを館内で展示しています。



### 2 戦後80年平和大使認定証の授与

例年、ピースガイダンスやピースキャラバンを受講した小中学生には、「平和大使カード」を配布しています。平和大使カードとは、来館時に受付に提示するとプレゼントがもらえるというものです。今年度は、戦後80年の節目の年に当たり、当館の見学を通して戦争と平和についての学びを更に深めた子供たちに、「戦後80年平和大使認定証」を授与しました。



## 平和ウィーク —戦後80年目の夏休み 今、平和について考えよう—

### 1 はじめに

今年8月2日(土)～15日(金)を平和ウィークとし、様々なイベントを開催しました。「夏休みピースチャレンジ」や「戦時中の体験を聞く会」、「紙芝居を楽しむ会」といった戦争と平和について学び、考える平和イベントをはじめ、子供向けの「クラフト教室」や「昔遊び体験」、「かき氷販売」も行い、多くの方に御来館いただきました。



### 2 夏休みピースチャレンジ

8月2日(土)、3日(日)、9日(土)～11日(月・祝)の5日間で「夏休みピースチャレンジ」を開催し、埼玉県内外から977名の皆様に参加していただきました。子供たちは探検パスポートを手に館内を巡り、「ガイダンス(ミニ授業)」、「展示クイズ」、「アニメ映画鑑賞」の3つの課題に取り組み、スタンプを集めました。



「ガイダンス」では、スライド資料や実物資料を見て説明を聞き、最後に実物資料に触れたり見たりして、戦時中の人々の暮らしについて学びました。「展示クイズ」では、企画展示室と常設展示室の展示物を見学しながら、パスポートに書かれたクイズに挑戦しました。「アニメ映画鑑賞」では、当館オリジナルアニメ映画『最後の空襲くまがや』、『青い目の人形物語』をはじめ、小学校国語科の教科書に掲載されている『ちいちゃんのかげおくり』、『一つの花』のほか、『さようならカバくん』の5作品を上映しました。チャレンジのまとめとして「平和へのメッセージ」を書いてくれた子供たちには、名前入りの「平和大使認定証」をプレゼントしました。

子供たちが記した358枚の「平和へのメッセージ」は、8月5日(火)～10月26日(日)まで館内のギャラリーに展示しました。



### 3 「戦時中の体験を聞く会」

8月2日(土)に東松山市との共催事業である「戦時中の体験を聞く会」を開催しました。今回は語り手に加須市在住の古峰孝氏をお招きし、「隣町から見た熊谷空襲と戦時中の生活」という演題で御講演いただきました。その概要は以下のとおりです。

#### 【内容の要約】

熊谷空襲のあった昭和20年8月14日、国民学校(当時の小学校)3年生だった私は、祖母と伯父(母の兄)が暮らす忍町(現、行田市)にある母の実家に、母、妹(5歳)、弟(1歳)とお盆のため里帰りしていた。

その夜、麦飯で作ったぼたもちを食べ終わり皆で寝ていると、母の「起きなさい!」という声に起こされた。周りはざわつきサイレンが鳴っており、外に出て西の方を向くと、空が真っ赤になっていた。また、ざわつきは、忍町の中心街方面からぞろぞろと人々が避難してくる音であった。すると、伯父が「早く防空壕に入れ」と呼びかけたので、私は母の後をついて入ろうとした。その時、伯父がいきなり剣幕で「お前はそっちじゃない、こっちだ!」と、女工用の防空壕(当時伯父は足袋の関連工場を経営しており、実家には家族用・女工用それぞれの防空壕があった)に私を入れ、家族と離れた私はその時伯父を不快に思った。そして、女工たちと共に1時間位防空壕にいたと思うが、息遣いが聞こえてきたこと以外はその後のことも含めて今でも思い出せない。

次に記憶があるのは翌朝、お腹がすいて前日の残ったぼたもちを食べたことである。その時ラジオをつけていたのだが雑音ばかりでよく聞こえず、伯父が耳を近づけて聞き終わった後、その場にいた皆に「天皇陛下のお言葉が今日の昼にあるそうだ」と伝えた。そしてその後伯父は私を呼び、「昨夜なぜおまえに別の防空壕に行けといったかわかるか」と尋ねたので、私は「分からない」と答えると、答え終わる間もなく「ここには防空壕が2つある。家族4人が同じ防空壕に入っても空襲を受けたなら、4人とも亡くなりお前の家は途絶えてしまう。お前は長男だ。何か あったときにどちらかは生き残らなくてはいけないのだ。」と私に話した。戦争や空襲では体だけでなく心も犠牲になった人がたくさんいるが、そんな戦争中にあっても伯父の一連の対応から、家族愛というのは変わらないものなのだ、との私はしみじみ思っている。

やがてお昼にいわゆる「玉音放送」がラジオから流れた。近所の大人たちは直立不動で聞いていた。私はまだ子供だったのでよく分からなかったが、戦争が終わったのだということはなんとなく分かった。

戦争中の生活は非常に厳しい状況であったが、なかでも食べ物がないこと、お腹がすいてもまともに食べることができない、このことが一番つらかった。当時食べ物はすべて配給制であり、砂糖やたばこも配給制であった。近年お米に関する問題がよくニュースになっているが、値段が高い・安いとはともかく、今はお米がある。当時はお米がなかった。そのくらい食べることに困った時代であった。



### 4 「紙芝居を楽しむ会」

8月10日(日)、坂戸市ボランティア団体「あじさいの会」と松山女子高等学校有志の皆さんの協力により、令和7年度第1回「紙芝居を楽しむ会」を実施しました。昨年度までの「紙芝居読み聞かせ会」から名称を変更し、「戦前～戦後期の娯楽」としての紙芝居を広く知ってもらうことをより重視しました。上演作品は「ピーター兔」「あおよ、かえってこい」などの4作品で、いずれの作品も、観客に紙芝居の奥深さが伝わるものでした。参加された方からは「紙芝居文化を楽しめました」「絵本とは違う楽しさがあり子供も興味津々で見ました」「なつかしく、とても良い時間でした」といった感想が寄せられました。

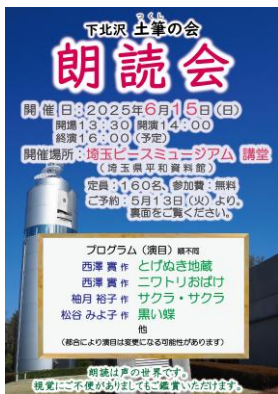


また、11月9日(日)には、埼玉県民の日協賛イベントのひとつとして第2回を実施し、「ごんごろ鐘」「あんずの花につつまれて」など4作品を上演しました。こちらも「紙芝居で後世に伝えることはとても良い」「高校生の一生懸命さがとても良かった」「とてもわかりやすく、子供達には勉強になったと思います」といった感想が寄せられ、参加いただいた方々の心に残る会となりました。



# 主な企画・イベント

## 1 朗読会「下北沢土筆の会」



6月15日(日)に東京・下北沢を拠点に活動している「土筆の会」をお招きし、朗読会を開催しました。土筆の会の朗読は読み手の声と音で構成しているため、視覚に不便がある方でも鑑賞いただけるイベントです。

今回の朗読会では、太平洋戦争激戦地のパラオ・ペリリュー島が舞台の作品や沖縄戦に関係する作品を朗読し、戦争の悲惨さと平和の尊さを感じることができるイベントになりました。

参加された方からは「大人になってからの本の読み聞かせを聴く体験は、貴重なものでした。」「内容も朗読もすばらしかった。もっと多くの人たちにもぜひ聞いてもらいたいものです。本当に発声、表現に感激!!」との御好評をいただきました。



## 2 チャリティーピースコンサート



7月13日(日)に坂井あい子氏(フルート)、末智子氏(ソプラノ)、国村加奈氏(ピアノ)をお招きし、チャリティーピースコンサートを開催しました。毎回御好評をいただき、今回も満席御礼となりました。

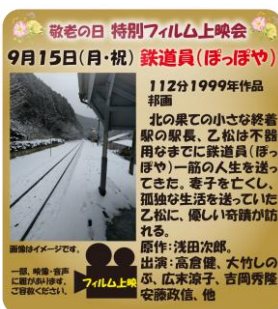
曲目は、映画『ハウルの動く城』より「人生のメリーゴーランド」、映画『魔女の宅急便』より「海に見える街」など映画の名曲から、中島みゆきの「糸」、葉加瀬太郎の「情熱大陸」などの往年の名曲、歌劇『ジャンニ・スキッキ』より「私のお父さん」など、様々な楽曲を披露していただきました。

参加された方からは「とても素晴らしい演奏、歌でした。又、次回も楽しみにしております。」「ピアノ、フルート、歌唱と様々な工夫をされており、楽しませて頂きました。会場もコンパクトで身近で一体感のある一時でした。ありがとうございました。」など数多くの御好評をいただきました。

なお本コンサートは東松山市との共催で、皆様からいただいた寄付金は東松山市福祉協議会へ寄付しました。



## 3 敬老の日「特別フィルム上映会」



9月15日(月・祝)の敬老の日に16mmフィルムの上映会を開催しました。

上映した作品は、高倉健主演の『鉄道員(ぼっぽや)』です。北海道の廃線寸前のローカル線の終着駅を舞台に、鉄道員として生きてきた主人公を描いた名作です。

どこか昭和を感じさせる映像に、映写機がフィルムを巻き取る「カタカタカタ」という音や現在のデジタル画像とは異なる柔らかな画質が、当時に思いを馳せ、また懐かしさを感じさせます。

また、通常の上映会よりも多くの方に関心を寄せていただき、当日の参加者数にも恵まれ、劇中の要所要所ではお客様の揃った笑い声が聞こえてきました。

## 4 初日の出観賞会・花火鑑賞などの展望塔活用事業



当館自慢の展望塔を活用し、令和8年1月1日(元日)に毎年恒例の行事となっている「初日の出観賞会」を開催しました。今回は若干の曇空でしたが、雲の合間から差す太陽の光は一層神々しく、例年とは違った初日の出を楽しむことができました。

8月23日(土)には、市内の花火大会を鑑賞するために開館時間を延長して展望室を開放する「花火鑑賞 in 埼玉ピースミュージアム」、12月の毎週土曜日には、イルミネーションを設置し開館時間を延長する「ウィンターナイトミュージアム」を開催しました。

普段は見ることができない展望室からの特別な景色を多くの皆様楽しんでいただきました。



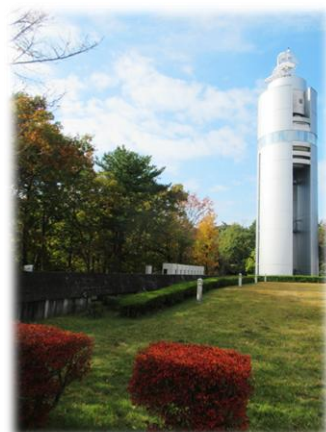
# 令和7年度実施事業一覧（展示・イベント・博学連携・刊行物）

## ● 企画展示

寄贈資料展「未来に伝える戦時の記憶」	3/22～5/18
戦後80年展示「戦争と復興 一埼玉県の歩み」	7/12～8/31
収蔵品展「昭和の暮らし ー戦前・戦中・戦後ー」	9/27～1/12

## ● ギャラリー展示

ギャラリー展Ⅰ「戦後80年 アニメ映画『青い目の人形物語』セル画展」	5/27～7/27
平和へのメッセージ展	8/5～10/26
ギャラリー展Ⅱ「戦争と音楽」	11/11～1/18
写真展「比企丘陵の四季」	2/17～3/22



## ● 平和イベント

戦後80年折り鳩アート	7/8～8/31(R8/8/30 まで期間延長)
夏休みピースチャレンジ	8/2・3、8/9～11
戦時中の体験を聞く会	8/2
紙芝居を楽しむ会	8/10、11/9
戦争体験者証言ビデオ上映会	毎月第2・4土曜・日曜(一部除く)

## ● イベント

クイズラリー	5/3～6、11/8～16
むかしあそび体験	5/4・5、8/3・9
初夏の寄せ植え教室	6/8
朗読会	6/15
七夕イベント	6/24～7/27
チャリティーピースコンサート	7/13、1/25
クラフト教室	8/8
夏休み平和コンサート	8/31
特別フィルム上映会	9/15
青空のもとでリースづくり(国際平和デー)	9/21
平和音楽祭【大東文化大学吹奏楽部】	11/9
平和音楽祭【SPレコードコンサート】	11/16
イルミネーション	11/26～1/12
ウインターナイトミュージアム	12/6・13・20・27
落語会	2/28
映画会(一部「親子映画会」として実施)	毎週土・日曜(一部除く)
展望塔活用事業(花火鑑賞・夕日観賞会・初日の出鑑賞会)	8/23、11/14、1/1

## ● 博学連携事業(令和8年2月末時点)

ピースガイダンス 全52回(2882名)
小:37、中:4、高:2、特:3、市町村等:6
ピースキャラバン 全111回(8373名)
小:101、中:6、高:2、特:2
学習用教材貸出 全66件(重複あり)
実物資料:30、写真パネル:34、DVD:67

## ● 刊行物

図録『収蔵資料ガイドブック』  
A4/ 32 頁 800円(税込)



【音声ガイド】  
音声ガイドを運用しています。  
<音声協力>  
県立松山女子高等学校 放送部

埼玉県平和資料館だより VOL.13(通巻63号)  
発行日 令和8年3月  
編集・発行 埼玉県平和資料館

〒355-0065 埼玉県東松山市岩殿 241-113  
電話:0493-35-4111 FAX:0493-35-4112  
E-mail:a2840-37@pref.saitama.lg.jp